

2023年 4月 23日

主 日 礼 拝

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 ②白川 達男兄

賛 美 聖歌232番 ～主の臨在の御前で～

十 戒

聖書朗読 ルカによる福音書24章25～32節

特別賛美 「イエスが愛したように」（大和カレブ会）

メッセージ 「主よ、私たちと一緒に泊りください！」

石井 潤 牧師

献 金 聖歌453番 ～イエスイエス聖なる主～

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛 美 賛美 「見つめ続けます」

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆
《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを心から感謝致します。今週も主の守りをお祈り致します。

☆今週の祈り会：○早天祈祷会、明朝6時。 ◎木曜祈祷会：①午前10時半

ボーマン・ルリ子先生。②夜7時半(大和祈祷会映像)。○準備祈祷会：土曜夜8時。

★来週の日曜は献堂記念礼拝(1997年献堂)です。(司：白川兄／祈：石井姉)

☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [4/23-30]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	サムエル上 19-21	22-24	25-26	27-30	31, 下 1-2	3-5	6-9	10-12
新約								
チェック	〇〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇

「主よ、私たちと一緒に泊りください！」

～主が行ってしまう前に…～

「彼らはせがんで〈あくまで主張して〉…。/”But they urged him strongly, Stay with us,”。

ルカによる福音書24章29節〔詳訳聖書/NIV〕

ふたりの弟子が、エルサレムから東に向かい、夕陽を背にして、エマオに向けてとぼとぼ歩いていた。イエス様が十字架に架かれて、亡くなられた事実を受け止めて落ち込んでいました。しかし、今朝起こった出来事によって更に心が動揺していた。墓に行った女たちが天使に出会い、イエス様が生きておられるという言葉聞いたというニュースでした。その後、数人の弟子も墓を確認し、墓石は取り除かれ、ご遺体がなかったということでした。そんな状況の中で、イエス様ご本人が不安で一杯の彼らの所に近づいていきました。

彼らは深い霧の中を手探りで歩いている状況で、道案内人が必要でした。その手助けをしようと、イエス様がご自身のご存在を隠しつつ、会話に入り込んでいきました。そして、まずは「何を話しているのですか？」とその心にあることを引き出します。「水を飲ませてください」とサマリヤの女性に話しかけた時のような気軽さです。イエス様は本当に茶目っ気たっぷりで、近づき易い方なのだなあとつくづく感じます。自分のペースでガンガン切り込んでいくのではなく、まずは聞いてあげる。受け止めるための配慮をしています。本当に教えられます。

そして、ゆっくりと、分かるように彼らの心を開かせて、理解できるように聖書を解説していきます。彼らの心が火で燃えるかのようにその話術にのめり込むかのように語ります。本当に語り方が上手だったのだなあとと思います。心をつかむことが素晴らしいと思います。

彼らがイエス様を理解したのは、一緒に泊まることにして、イエス様が祝福の祈りを捧げてパンをお裂きになって二人に渡されたときでした。「泊まる」という言葉はギリシャ語で「メノウ」という言葉ですが、このことばを一つのテーマとしているのが、ヨハネによる福音書です。2ページ後のヨハネ1章35節からのお話しの中で、それまではバプテスマのヨハネの弟子であったふたりの弟子が師匠であるヨハネの紹介でイエス様の後を付いて行きます。そして、「何か願ひがあるのか？」とイエス様に話しかけられて、「ラビ、どこにお泊り(メノウ)なのですか？」と質問したら、「来てごらんさい。そうしたら分かるだろう。“Come and see.”」と語られて、イエスの弟子となりました。この二人はアンデレとヨハネでした。今回はクレオパともう一人の弟子の名前は分かりませんが、同じようにふたりの弟子たちとイエス様はお泊りになっています。そして、食前の祈りの後、パンを裂いた時に彼らの目が開かれて、それがイエス様だと気がつきました。そして、自分たちがイエス様のお話を聞いていたときに、その心に火がついたかのように燃えていたことを思い出しました。それは、本当に久々の感覚だったのでしょうか。”確かにあれは主イエス様だ！”と確信したのです。